

辺野古埋め立て予定地

1423年



2007年、防衛省沖縄防衛局が地盤報告書。「軟弱な地盤層が広く、厚く分布」と明記。追加調査の必要性も指摘

13年、防衛局が埋め立て申請。追加調査はせず、地盤に大きな問題なしと説明。その後、県が埋め立て承認

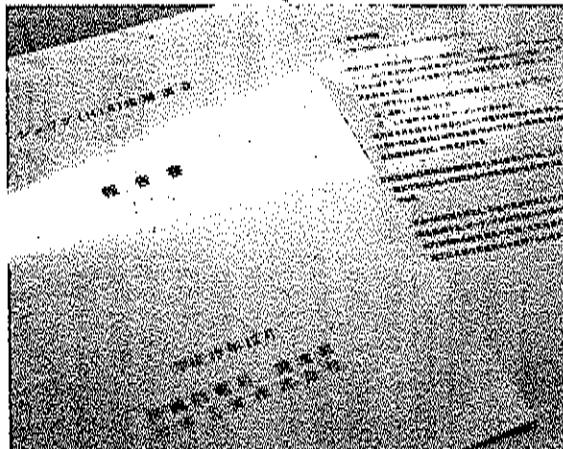
14年、防衛局が追加調査開始

16年、防衛局が土砂投入開始

19年、政府が軟弱地盤の存在を認める

20年、防衛局が県に設計変更を申請

沖縄県名護市辺野古の米軍施設建設を巡り、防衛省沖縄防衛局が埋め立て申請前の2007年の地盤の調査書が、海面に軟弱な地盤が存在し、基礎の設計には追加のボーリング調査が必要と結論付けていたことが、分かった。防衛局は実際には、追加調査をしていない。また地盤に大きな問題はないとの説明に対して、手続を怠る。沖縄県から13年に埋め立て承認を得た。申請内容が違っていたのかどうかを問う声が強まる可能性がある。



防衛省沖縄防衛局と委託業者が2007年にまとめた地盤調査の報告書のコピー

沖縄県名護市辺野古の米軍施設建設を巡り、防衛省沖縄防衛局が埋め立て申請前の2007年の地盤の調査書が、海面に軟弱な地盤が存在し、基礎の設計には追加のボーリング調査が必要と結論付けていたことが、分かった。防衛局は実際には、追加調査をしていない。また地盤に大きな問題はないとの説明に対して、手続を怠る。沖縄県から13年に埋め立て承認を得た。申請内容が違っていたのかどうかを問う声が強まる可能性がある。

軟弱地層を握った

沖縄防衛局、県へ申請前に

がなく、風で分布する」との見解を示した。一方、大浦漁港側の地質構造を把握するには当然、少々が少ないといいながら、「設計・施工には(地盤調査の)分布状況の精度向上と伴状把握が必要」と指摘した。

具体的には、追加のボーリング調査で、「今回の調査結果を検証・修正」するほか

中請書では、島嶼にわたる沖の海上に「軟弱な地盤層を含めて分析」、辺野古周辺の海面に「軟弱な地盤層を詳しく述べた。

沖縄県は、防衛局と委託業者が同年にまとめた地盤調査の報告書を情報公開請求で入手した。

それが正確と判断せば、それを改訂する事が必要な

だ。

防衛局は14年にボーリング調査を開始。結果を踏まえていないと記載。設置する機械の種類、工法なども

だ。

防衛局は埋め立て申請前、追加調査をしながら、前回調査で確認された地盤の構造、工法などを

だ。

防衛局は、1日あたり回答がなかつた。

だ。